

2023年3月期 第2四半期 決算補足説明資料



—やすらぎと安心の創造—

証券コード:5237

1. 2023年3月期第2四半期 連結決算の概要	P.3
2. 連結貸借対照表前期末比較	P.9
3. 連結キャッシュ・フローの状況	P.10
4. 連結経営指標（5年間推移）	P.11
5. 2023年3月期 連結業績予想	P.13
6. ESG経営への取り組み	P.15
7. トピックス	P.24

1. 2023年3月期第2四半期 連結決算の概要

1-1 連結損益計算書前年同期比較

	2023/3月期 2Q 実績		2022/3月期 2Q 実績		増減 (前年同期実績比)		2023年3月期 2Q 5/13発表予想値		増減 (5/13発表予想値比)	
	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率
売上高	10,217		10,043		+174		9,900		+317	
営業利益	603	5.9%	1,061	10.6%	▲458	▲4.7pt	680	6.9%	▲76	▲1.0pt
経常利益	711	7.0%	1,191	11.9%	▲479	▲4.9pt	770	7.8%	▲58	▲0.8pt
特別利益	1	-	261	-	▲260	-	-	-	+1	-
特別損失	103	-	45	-	+58	-	70	-	+33	-
親会社株主に帰属 する四半期純利益	415	4.1%	1,105	11.0%	▲690	▲6.9pt	500	5.1%	▲84	▲1.0pt

当第2四半期においては、新型コロナウイルス感染症第7波の到来により感染者が大幅に増加し、収束の見通しは依然として不透明な状況で推移しました。加えて、ウクライナ情勢の長期化等の影響による資源高騰、為替相場の急激な変動等により、建設材料業界でも厳しい状況が続いております。このような状況のなか当第2四半期連結累計期間の当社グループの連結業績は前年同期比増収減益となりました。売上高については工事収益が増加したことにより前年同期比微増、利益についてはコロナ禍による販売減での減益に加え、原材料・エネルギー価格の急激な高騰が利益を圧迫する結果となりました。5/13発表予想比について、工事収益が増加したものの外部環境が予想よりも悪化した結果、増収減益となりました。

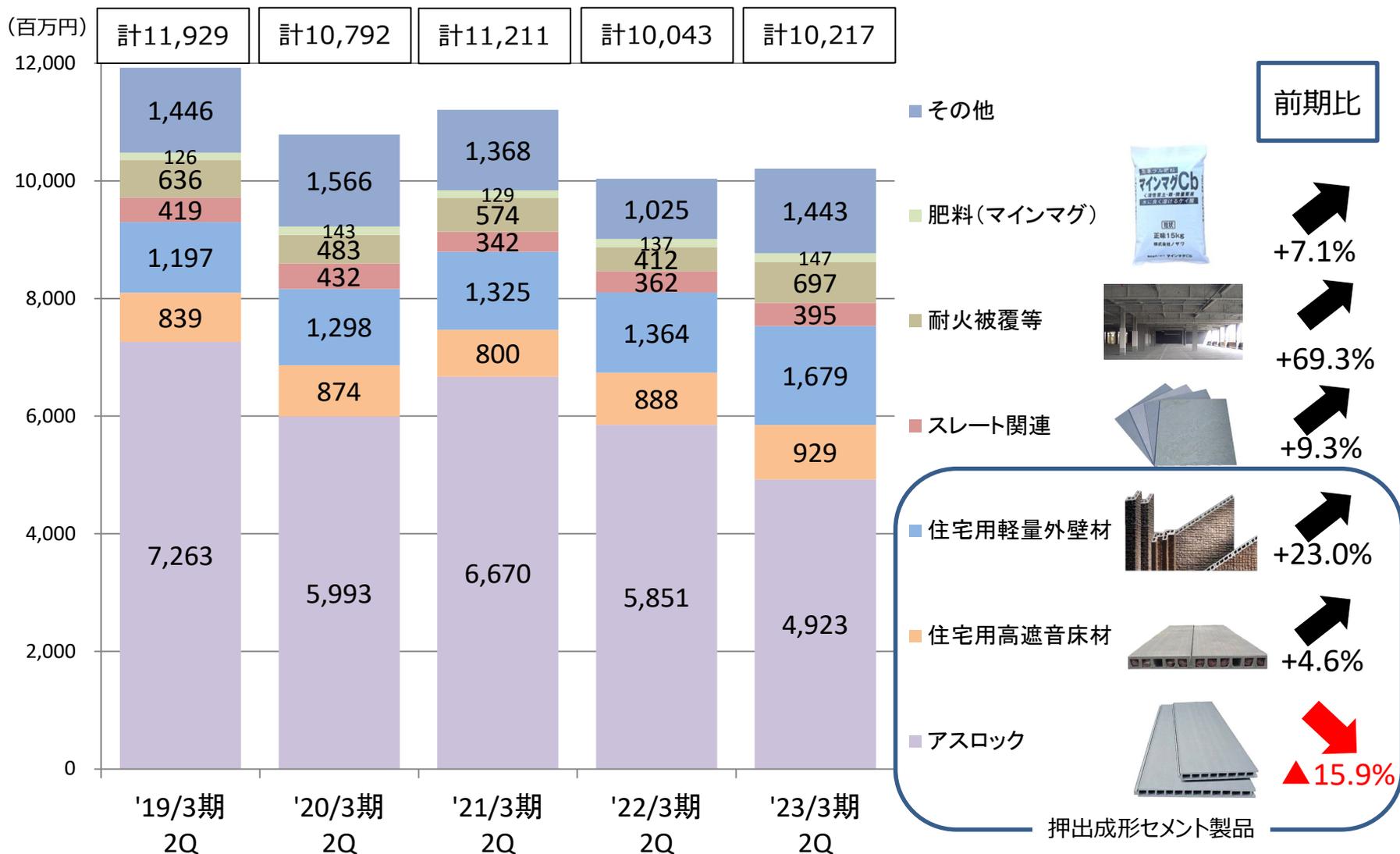
1. 2023年3月期第2四半期 決算概要(前年同期比)

1-2 売上高 [前年同期比1億74百万円増収の102億17百万円]

- 当第2四半期の主力の押出成形セメント板「アスロック」の売上高は、超高層向け商品「アルカス」の販売が伸長しましたが、コロナ禍により建築着工床面積が低迷している状況に加え、前年より徐々にその影響を強めている資源価格高騰や急激な円安等により建設投資に慎重な姿勢が見られたこと等により、前年同期比9億28百万円減少の結果となりました。
- 住宅向け商品については、住宅用高遮音床材・住宅用軽量外壁材ともに前年同期比増収となりました。住宅用高遮音床材は前年同期比40百万円の増加、住宅用軽量外壁材は前年同期比3億14百万円の増加と堅調に推移しました。
- 内装用ボードについては、「フレキシブルシート素地シリーズ」が伸長したこと等から、スレート関連売上高は前年同期比33百万円の増加となりました。「フレキシブルシート素地シリーズ」は、熟練した職人技術が不要な接着剤貼りで内装をコンクリート打放し風に仕上げることができ、店舗・事務所等で好評を得ております。
- 肥料（マインマグ）は、その効果がSNSで広まったこと等により前年同期比9百万円増加となっております。
- 工事売上高については、耐火被覆等工事やその他の工事で増加し、工事売上高全体では前年同期比5億80百万円増加となりました。

1. 2023年3月期第2四半期 決算概要(前年同期比)

1-2 売上高 [連結品種別売上高推移]



1. 2023年3月期第2四半期 決算概要(前年同期比)

1-3 各段階利益

[営業利益 前年同期比4億58百万円減益の6億3百万円]

- 前期後半から影響が顕在化している資源高騰はとどまる気配なく、当第2四半期においても多大な影響を及ぼしております。このような状況に対し、工場でのNNPS(ノザワ・ニュー・プロダクション・システム)改善活動によって原材料・エネルギーの有効活用の追求や生産効率の向上などのコストダウンを実現、前年同期比約1億円の原価ダウンとなりました。
- しかし、原材料・エネルギー価格の上昇により原価は前年同期比3.7億円増加しており、上記コストダウンと併せると、資源高騰により2.7億円の原価アップとなりました。
- また、上記資源高騰による原価アップに加え、コロナ禍に伴うアスロック販売減による減益もあったこと等から、売上総利益は前年同期比5億58百万円減少の28億88百万円となりました。
- 販管費は、かねての運送費値上げを受け、顧客からもらい受ける運賃を一部値上げしたこと等による物流費ダウン等により、前年同期比99百万円減少の22億85百万円となりました。なお、売上高比販管費率については、1.3ptダウンの22.4%となっております。
- これらにより、営業利益は前年同期比4億58百万円減少の6億3百万円となりました。

[経常利益 前年同期比4億79百万円減益の7億11百万円]

- 営業外収支は、前年同期は為替差益41百万円の計上があったこと等により、前年同期比21百万円減少の1億8百万円となりました。
- 経常利益は、上記の営業減益と営業外収支の減少により、前年同期比4億79百万円減少の7億11百万円となりました。

1. 2023年3月期第2四半期 決算概要(前年同期比)

1-3 各段階利益

[親会社株主に帰属する四半期純利益 前年同期比6億90百万円減益の4億15百万円]

- 特別利益は、前年同期比2億60百万円減少の1百万円となりました。前年同期は中国連結子会社の清算終了により、為替換算調整勘定取崩益2億61百万円の計上があったことによります。
- 特別損失は、前年同期比58百万円増加の1億3百万円となりました。主に訴訟損失40百万円の計上があったことによります。
- 上記より、特別損益は前年同期比3億18百万円減少の▲1億2百万円となりました。
- 税金費用は、前年同期比96百万円減少の1億93百万円となり、経常減益と上記の特別損益の悪化と合わせ、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比6億90百万円減少となる4億15百万円となりました。

1. 2023年3月期第2四半期 決算概要(予想比)

5月13日に公表した業績予想との差異については、コロナ禍に資源価格高騰や急激な円安等に伴う各企業の投資マインドの抑制による影響が加わり、当第2四半期の外部環境は当初予想よりも悪化しました。

【売上高 予想比3億17百万円増収】

- 上記の状況から、「アスロック」売上高は4.6億円の減収となりましたが、工事売上高が耐火被覆工事の増加などにより5.9億円の増収となったこと等から、予想比3億17百万円増収となりました。

【営業利益 予想比76百万円減益】

- 売上総利益について、原材料価格はほぼ想定通り推移しましたが、電力・ガス価格は想定を超えるスピードで上昇しました。これに対し、工場でのエネルギー使用効率の改善等により72百万円のコストダウン効果がありましたが、電力・ガス価格の上昇は想定以上で、予想比86百万円の前価アップとなり、コストダウン効果を打ち消しました。
- また、上記アスロック販売の低迷により、売上総利益は予想比1億55百万円の減益となりました。
- 販管費は、前年比較同様に物流費ダウン等が奏功したこと等から予想比78百万円の減少となりましたが、上記の売上総利益の悪化により、営業利益は予想比76百万円減益となりました。

【経常利益 予想比58百万円減益】

- 営業外収支が予想比18百万円好転しましたが、上記の営業利益の悪化により、経常利益は予想比58百万円の減益となりました。

【親会社株主に帰属する四半期純利益 予想比84百万円減益】

- 特別損失に訴訟損失40百万円を計上したこと及び上記の経常減益により、親会社株主に帰属する四半期純利益は予想比84百万円の減益となりました。

2. 連結貸借対照表前期末比較

		(百万円)	
科目	増減額	科目	増減額
流動資産		流動負債	
現金及び預金	+16	支払手形及び買掛金	+246
受取手形売掛金契約資産	+86	未払法人税等	▲74
棚卸資産		賞与引当金	+6
商品及び製品	▲15	関係会社清算損失引当金	+22
仕掛品	+9	その他	▲153
原材料及び貯蔵品	+36	計	+47
未成工事支出金	▲17	固定負債	
その他	+85	退職給付に係る負債	▲70
計	+201	訴訟損失引当金	+40
固定資産		その他	▲11
有形固定資産	▲79	計	▲42
無形固定資産	▲6	負債計	+4
投資有価証券	+30	純資産	
その他	▲128	利益剰余金	▲40
計	▲183	その他有価証券評価差額金	+19
		為替換算調整勘定	+9
		退職給付に係る調整累計額	+24
		純資産計	+13
資産計	+17	負債純資産計	+17

【総資産の増減】

総資産は前期末比17百万円増加。主に受取手形、売掛金及び契約資産が86百万円増加した一方、固定資産のその他に含めて表示している繰延税金資産が40百万円減少したこと等によります。

【負債の増減】

負債は前期末比4百万円増加。主に支払手形及び買掛金が246百万円増加した一方、未払法人税等が74百万円、退職給付に係る負債が70百万円、それぞれ減少したこと等によります。

【純資産の増減】

純資産は前期末比13百万円増加。主に利益剰余金が40百万円減少した一方、その他有価証券評価差額金19百万円、退職給付に係る調整累計額が24百万円それぞれ増加したこと等によります。

3. 連結キャッシュ・フローの状況

- 営業キャッシュ・フローは+8.1億円、投資キャッシュ・フローは▲3.4億円となり、フリーキャッシュ・フローは+4.7億円。財務キャッシュ・フローは▲4.5億円。
- 上記の結果、当第2四半期末の現金及び現金同等物は前期末比0.1億円増加の70.3億円。

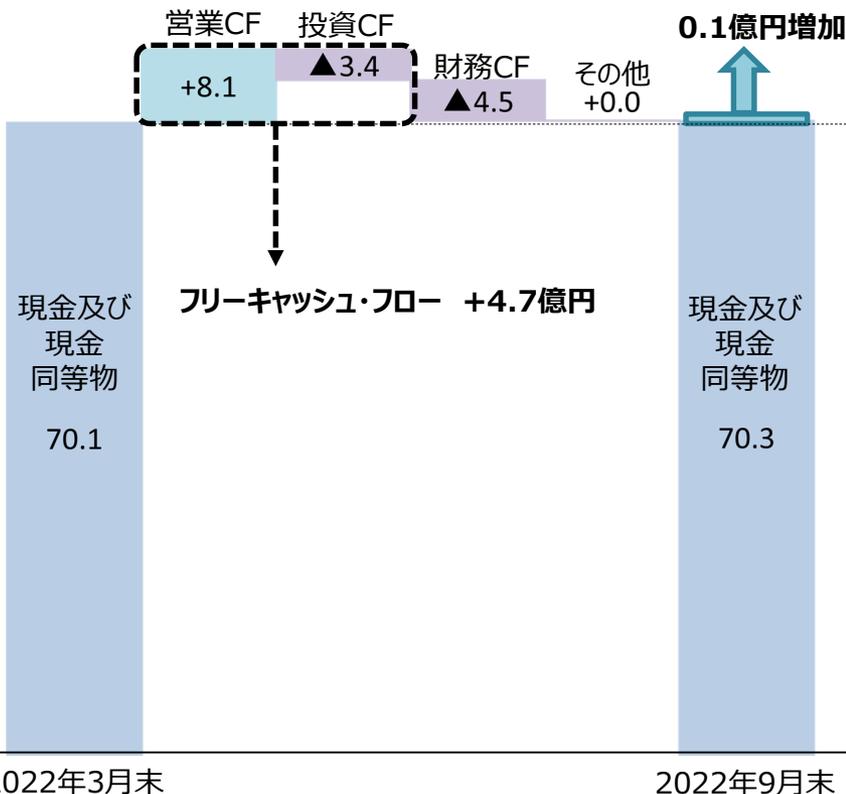
【現金及び現金同等物の増減内訳】

(億円)

【連結キャッシュフロー計算書 概要】

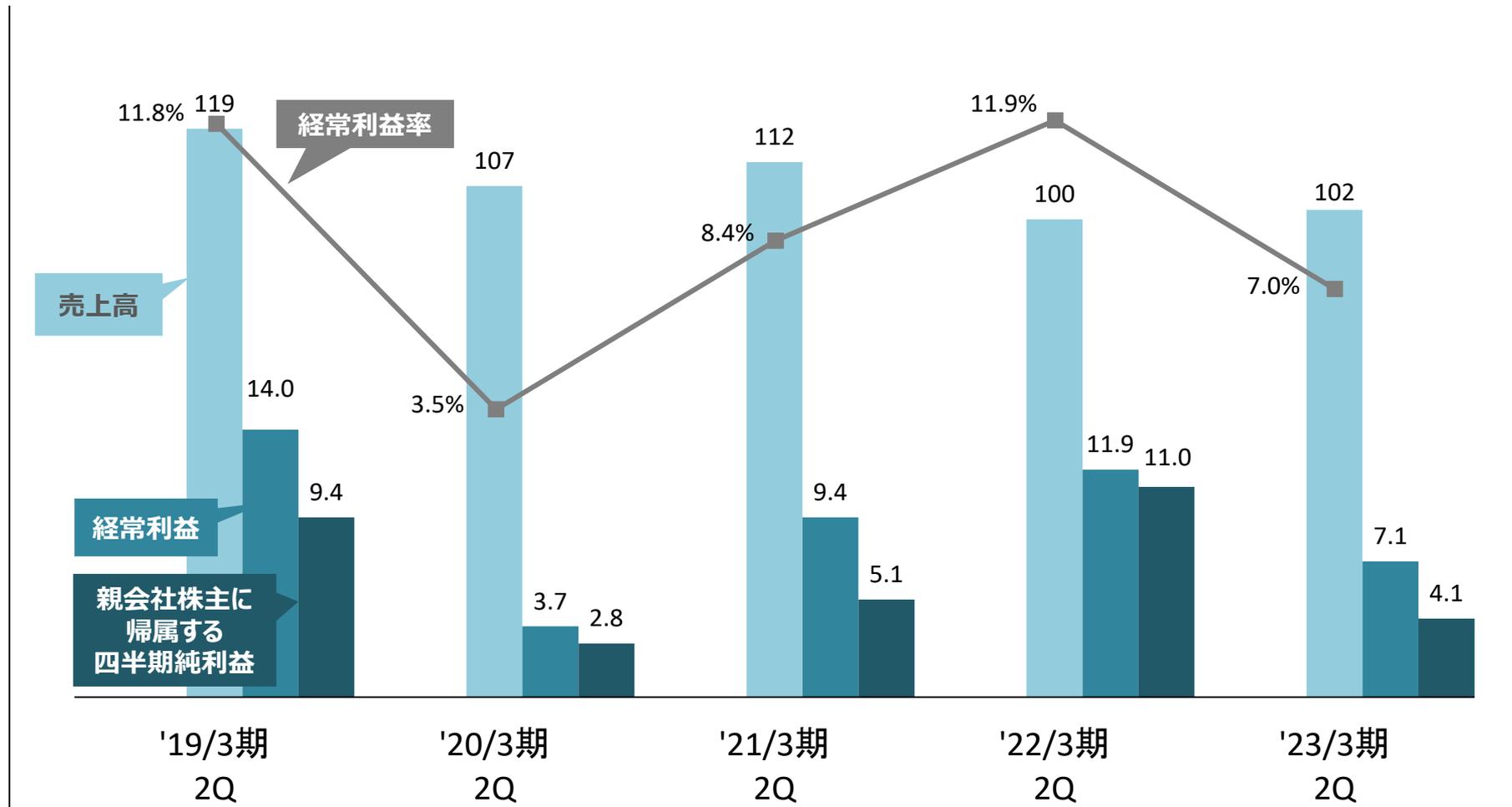
(百万円)

項目	金額	備考
税金等調整前当期純利益	609	
減価償却費	343	
受取保険金	▲60	
売上債権の増減額	▲176	
棚卸資産の増減額	▲10	
仕入債務の増減額	412	
その他	▲305	
営業活動によるキャッシュ・フロー計	813	
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲342	主に有形固定資産の取得
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲458	主に配当金の支払い



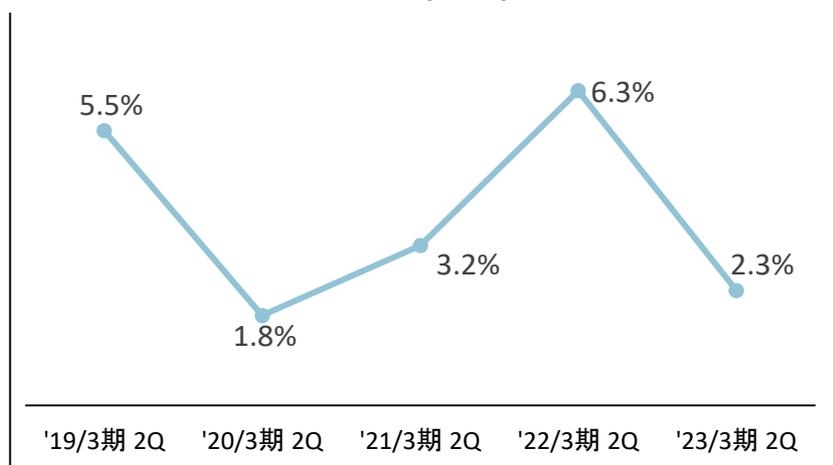
4. 連結経営指標推移 (第2四半期)

売上高、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益 (億円) 並びに経常利益率

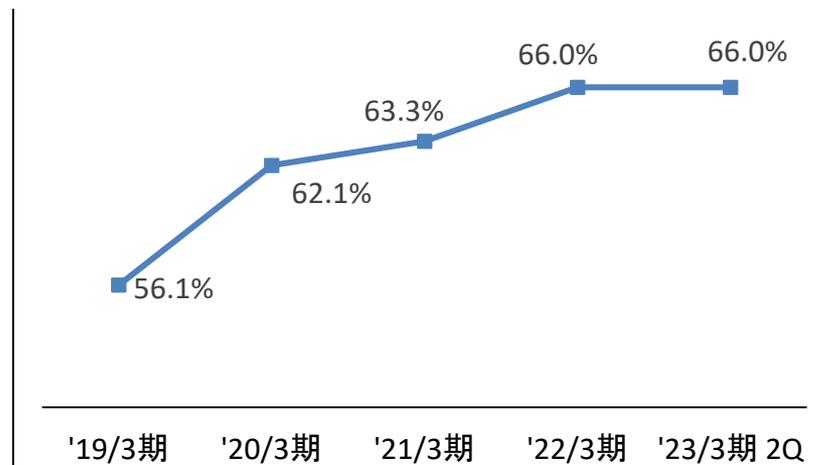


4. 連結経営指標推移 (第2四半期)

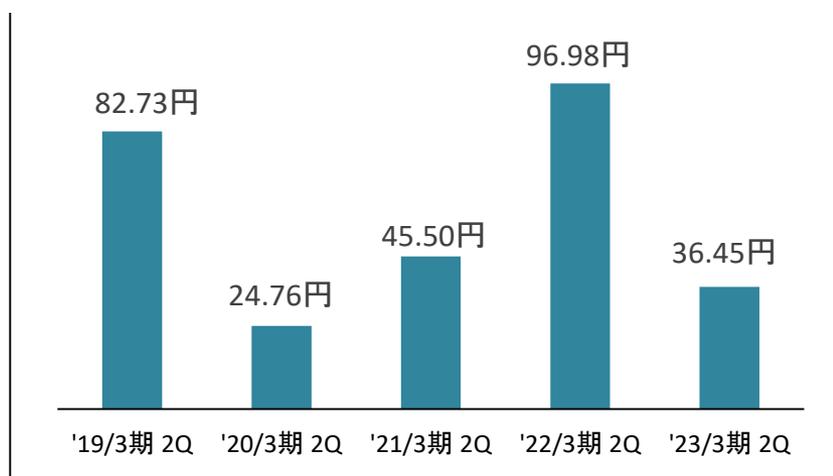
自己資本当期純利益率(ROE)



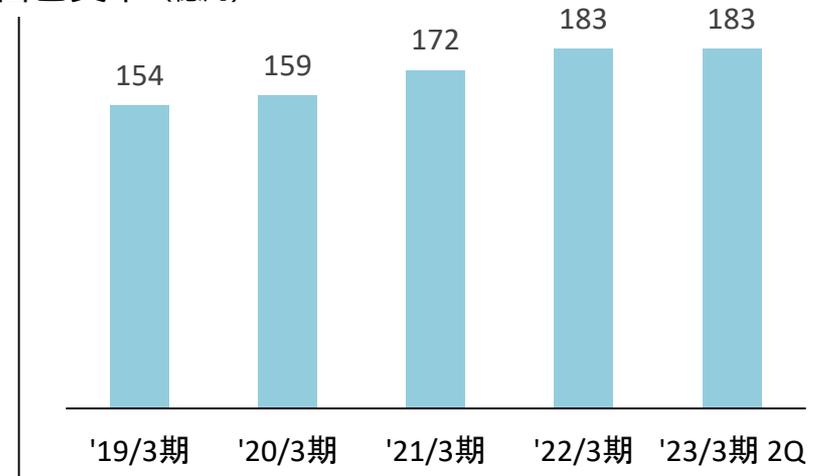
自己資本比率



1株当たり当期純利益



自己資本 (億円)



5. 2023年3月期 連結業績予想

(金額:百万円)

	2023年3月期 今回予想値		2022年3月期 実績		増減 (2022年3月期実績比)	
	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率
売上高	20,000		20,546		▲546	
営業利益	1,400	7.0%	1,848	9.0%	▲448	▲2.0pt
経常利益	1,500	7.5%	1,987	9.7%	▲487	▲2.2pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,000	5.0%	1,713	8.3%	▲713	▲3.3pt

通期の連結業績予想につきましては、現時点では2022年5月13日に公表いたしました業績予想から変更ありません。

5. 2023年3月期 連結業績予想

【前期比】

- 第2四半期はコロナ禍やウクライナ情勢の影響を受けアスロック販売が低迷しました。下期のアスロック販売につきましては、5月13日公表の業績予想での見通しどおり、下期より徐々に回復すると見込まれるものの、前年同期の水準には届かないと見ております。住宅向け商品等その他の販売口売上高につきましても5月13日時点の見通しどおりに推移することが見込まれ、また、工事売上高についても、5月13日時点の見通しどおり前年同期比減少が見込まれることから、連結売上高は5月13日公表の連結業績予想と変更はありません。
- 利益面では、下期も資源高の影響が続くことが想定され、原材料・電力・ガス価格は当初の想定を超えて上昇すると見込まれますが、NNPS(ノザワ・ニュー・プロダクション・システム)改善活動を実行し、工場でのエネルギー有効活用等の更なる推進によるコストダウンを実現させ、この状況に対応していきます。
- また、2022年4月26日のお知らせのとおり、生産コスト上昇を踏まえた製品販売価格の改定を順次進めており、この効果が下期より出てくると見ております。価格改定は現在も交渉を進めておりますが、一部においては決定しております。これらのことから、通期の営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、現時点では5月13日公表の連結業績予想と変更はありません。

6. ESG経営への取り組み



— E（環境）課題 — カーボンニュートラルの実現

2022年10月SBT認定に向けた申請を行いました。

SBT（Science Based Targets）とは
パリ協定が求める水準と整合した、5年～10年先を目標年として企業が設定する、温室効果ガス排出削減目標のことです。

温室効果ガス削減目標

2030年度**50%削減**（2018年度比）

生産工場における再生可能エネルギー電力への切り替への推進、及び太陽光発電設備の拡大を推進しCO₂排出量を削減します。

6. ESG経営への取り組み



— E（環境）課題 — カーボンニュートラルの実現

当社所有地にて植林・緑化を推進

北海道富良野市の当社所有地にて55万㎡以上の植林・緑化を推進しています。
山林全体でのCO2吸収量は年間429トン(植林部分では183トン)に相当します。



ノザワフラノ事業所の敷地



植林・緑化の様子



本年は7月に植林を実施しました

6. ESG経営への取り組み



— E (環境) 課題 — カーボンニュートラルの実現

環境商品の拡販

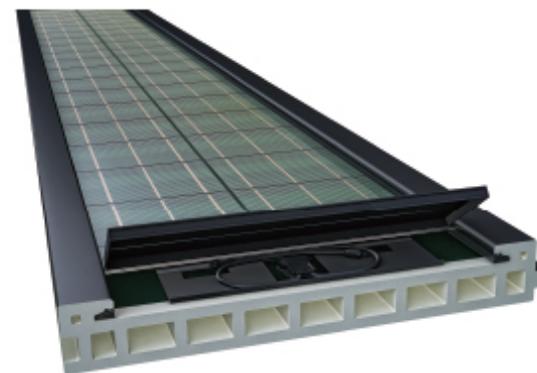
弊社の環境対応商品は、日射調整機能外壁材「レフスカイ」、外壁一体型ビルトイン壁面緑化「アスロックグリーンウォール」、太陽電池一体型外壁システム「アスロックソーラーウォール」をラインナップしています。



レフスカイ
—日射を調整する地球に優しい壁—



グリーンウォール —緑を育てる壁—



ソーラーウォール —太陽の光で発電する壁—

6. ESG経営への取り組み



— S (社会) 課題 — ダイバーシティの推進

多様性を含めた採用計画を達成するための一つの取り組みとして採用ホームページをリニューアルしました。

当社の求める人材を明確にし、様々な方に当社へ興味を持っていただける様な採用ホームページへのリニューアルを行いました。

2022年4月～9月の採用実績 18名

内 外国人：1名
女性：3名
中途：8名



6. ESG経営への取り組み



－ S（社会）課題 － ワークライフバランスの推進

社内制度・社内規則を改定

「人を大事に」の理念のもとワークライフバランスの推進の一つとして、2022年に以下の4つの制度・規則を改定いたしました。

- ・社員賃金規則……住宅補助手当の増額
- ・社員慶弔金規則…出産祝い金の増額
- ・社員旅費規則……出張日当の見直し
- ・借上社宅制度……収入に応じた個人負担額の是正

6. ESG経営への取り組み



— G（企業統治）課題 — 公正・透明な経営

取締役会は適切に運営され、実効性はおおむね確保できていると分析・評価いたしました。

当社の取締役会実効性評価について

当社取締役会は、取締役および取締役会の業務の適性を確保することを目的に取締役会全体の実効性評価を実施いたしました。評価に当たっては、取締役および監査役全員を対象に取締役会の規模・構成・運営・支える体制についてのアンケートを実施し、その集計結果に基づき分析・評価いたしました。その結果、取締役会は適切に運営され、実効性はおおむね確保できていると分析・評価いたしました。

但し、取締役会の構成、議案の内容と量について、改善を要する意見もありました。今後は、これら課題の検討も含め、更なる取締役会の実効性の向上を図ってまいります。

6. ESG経営への取り組み



— G (企業統治) 課題 — 積極的な情報開示

ステークホルダーに向けたIR活動

2022年10月27日当社ホームページにて「サステナビリティ」の取り組みとして、「環境管理基本方針」「社会貢献活動」「ESG経営の取り組み」について、新たに公開いたしました。

サステナビリティページURL

<https://www.nozawa-kobe.co.jp/sustainability/>



6. ESG経営への取り組み



— G（企業統治）課題 — コンプライアンス遵守

コンプライアンス遵守とハラスメントゼロへの取り組み

2021年にコンプライアンス啓発・教育委員会を設置
コンプライアンスホットラインを整備しコンプライアンス遵守とハラスメントゼロへの取り組みを推進しています。

- ・全役員・全管理職に対して毎年コンプライアンス研修を実施
- ・管理職以外の社員に対しては2年に1回のコンプライアンス研修を実施
- ・コンプライアンス便りを月2回全事業所に配布し、啓蒙活動を実施
コンプライアンス便りを通じて全従業員へコンプライアンスホットラインの周知徹底を図る

6. ESG経営への取り組み



— G（企業統治）課題 — 企業リスクゼロへの取り組み

情報セキュリティポリシー改定

2004年より情報セキュリティポリシーを策定し運用してまいりましたが、昨今のサイバーテロの増加やコロナ禍でのテレワークの増大による情報漏洩リスクなどの企業リスクの高まりに備える為、2022年8月に情報セキュリティポリシーを改定、情報セキュリティ体制や教育体制の見直しを実施いたしました。

7. トピックスーウッドデザインシリーズ「旺実」発売

おうざね アスロック ウッドデザインシリーズ「旺実」を

2022年10月に発売しました。

意匠登録出願済



アスロック ウッドデザインシリーズ旺実

ウッドデザインシリーズ「彩実(あやざね)」
「糸実(いとざね)」に続く第3弾として、
ワイド900「旺実(おうざね)」を10月より
発売しました。

「旺実(おうざね)」は、大柄な木目柄に
よりダイナミックなイメージを際立たせ、木
材そのものの木目模様を再現し、木目
の美しさに細部までこだわったデザインパ
ネルです。

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後さまざまな要因によって大きく異なる可能性があります。

また、本資料は情報の提供のみを目的としており、取引の勧誘を目的としておりません。